

【普通作物】の【低温】対策について

<2月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稻】（育苗期）

（1）予想される被害状況

- ① 発芽の遅延やムラなどが発生する。
- ② 播種後の苗の伸長遅れや、根のマット形成が悪くなる。

（2）事前対策

- ① 浸種の水温は10℃以上を確保し十分に行い、必ず催芽で芽切りを行う。
- ② 出芽時は30～32℃を保てるよう加温に努め、出芽ムラがある場合は箱の並べ換えを行い揃える。
- ③ 出芽以降の夜間の低温時は、被覆や加温機で必要温度の確保に努める。
- ④ 苗箱への灌水は、夕方行うと地温を下げるので必ず午前中に行う。

（3）事後対策

- ① 苗の伸長にムラが発生した場合は、箱を置き換えて揃える。
- ② マット形成が不十分で田植えに耐えられない場合は、育苗期間を延長する。
この場合、葉色により液肥散布や立枯病等の防除を行う。

【ムギ】（分けつ期～幼穂形成期）

（1）予想される被害状況

- ① 生育が早まった状態で、低温に遭遇すると幼穂が障害を受ける。

（2）事前対策

- ① 分けつ期にこまめに麦踏みを行い、節間伸長や幼穂形成を遅らせる。
- ② 土入れは多めにする。

（3）事後対策

- ① 生育に応じて追肥する。